（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和５年度　学校自己評価システムシート（県立鶴ケ島清風高等学校）

目指す学校像	地域に貢献できる人材の育成

重　点　目　標	1　「自ら考える力」の育成 2　「健全な職業観・勤労観」の育成 3　地域との連携・協働による「地域参画力」の育成

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価
年度目標				年度評価（　月　日現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	**■現状** ・指導者用端末等のICT機器を活用した授業実践や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が広がりつつある。 ・令和5年度入学生から1人1台端末環境下での学習指導が展開される。 **■課題** ・新学習指導要領で育む資質・能力の獲得に向けた各教科での指導に加え、教科等横断的な学びも充実させる必要がある。 ・国の「学校教育情報化推進計画(R4.12策定）」等を踏まえ、令和5年度入学生からの1人1台端末環境下における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる必要がある。	ICTの効果的な利活用による授業改善	①学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を基盤に、「わかる・考える・できる」を具現化する授業をICTの利活用も含めて実践する。 ②新学習指導要領が養成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえ、授業研究（研究協議）・授業分析・授業評価等に取り組むとともに、教科等横断的な学習を展開する。 ③生徒の学力・学習状況を的確に把握し、小人数学級編制、習熟度別授業や単位制等のメリットを最大限に生かした「個別最適な学び」と「協働的な学び」を行う。 ④1人1台端末環境下におけるICTの効果的な利活用による校務の改善及び教育活動におけるGoogle WorkspaceやClassi等の活用を総合的かつ計画的に行う。	①②新学習指導要領の理念を踏まえた授業研究（研究協議）・授業分析・授業改善・授業評価等を実施できたか。 ③「学校評価アンケート」の授業理解度に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ①②③④「学校評価アンケート」の学習指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ④1人1台端末環境下での校務及び授業におけるICTの効果的な利活用方法が確立されたか。				
2	**■現状** ・計画的・段階的な本校独自の「キャリア教育プログラム」を実施し、コミュニケーション能力や社会性の育成を含めたキャリア教育を展開している。 ・集団生活におけるルール、マナーやモラルを遵守する指導を行うとともに、生徒が主体的に活躍する場を創出している。 **■課題** ・早期段階から自己の能力・適性・感性等についての理解を深め、自己の成長を見据えた確かな進路選択に繋げる必要がある。 ・将来の職業生活に向けて基本的な生活習慣や規範意識を育み、利他の精神を更に醸成する必要がある。	将来の職業生活に向けた利他的精神の醸成	①「鶴ケ島清風アカデミア」での探究活動を中心に、地域企業等と連携したインターンシップ、外部講師等を活用したキャリアガイダンスや進路講演会、各種見学会、大学等授業体験等を計画的に実施する。 ②体育祭や文化祭等の学校行事に全ての生徒が主体的に参加することができるよう工夫・改善を進め、利他的な行動や自発的な行動を取る生徒の活躍の場とする。 ③自己の能力・適性・感性等についての理解を深めるため、Classiのポートフォリオ機能と生徒手帳（いまみらい手帳）を効果的に活用する。 ④秩序ある学校生活を送ることを通し、思いやりの心と規範意識を培い、徳性を涵養するとともに、生徒の個別状況を早期に、かつ的確に把握し、組織的な指導を行う。	①「鶴ケ島清風アカデミア」や本校独自の「キャリア教育プログラム」を充実させることができたか。 ①③「学校評価アンケート」の進路指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ①②③④３年次生徒の第１志望進路の実現が９割程度になったか。 ③④Classiのポートフォリオ機能や生徒手帳（いまみらい手帳）の活用がより一層推進され、面談等によって生徒の個別状況が早期に、かつ的確に把握できたか。 ③④「学校評価アンケート」の生徒の目標設定に関する調査項目や学校生活に関する調査項目の肯定回答割合が9割以上になったか。				
3	**■現状** ・新型コロナウイルス感染症が感染症法の分類を５類に引き下げられることを受け、教育活動における制限・制約は緩和される方向にある。 ・学校説明会の運営・実施方法や中学校訪問等を省力化しつつ、最大限の効果が得られる形に見直しを図った。 **■課題** ・WITHコロナ/AFTERコロナ時代における学校・家庭・地域との連携・協働による教育活動や地域貢献活動等を更に推進する必要がある。 ・学校における働き方改革を推進するため、県内中学校等卒業者数の減少を念頭に置きつつ、更なる効果的・効率的な学校広報活動の取組を模索する必要がある。	WITHコロナ／AFTERコロナ時代における学校・家庭・地域連携事業の更なる充実	①WITHコロナ／AFTERコロナ時代における地域と連携した教育活動や地域貢献活動等の在り方と学校の働き方改革を総合的に検討し、学校・地域の双方が「WIN-WIN」となる取組を実践する。 ②専門教科を始めとする授業や防災避難訓練、生徒指導や保健教育関連の行事等において、地域や外部関係諸機関等と連携した取組を実施する。 ③学校Webサイト、YouTubeを利用した動画配信、保護者向けの情報配信ツールとしてClassiやメール配信等を活用し、学校情報を更に積極的に配信する。 ④中学生及びその保護者等の中学校関係者に本校の教育活動の魅力をより効果的・効率的に伝える方法を検討・実施する。	①②学校内外のステークホルダーとの良好な協力関係の形成・維持に基づく学校教育活動が展開できたか。 ②授業や学校行事等における地域や外部関係諸機関等と連携した取組の実施件数が昨年度を上回ったか。 ③④学校広報・生徒募集業務の効率化と戦略的展開が更に進んだか。 ③④学校Webサイトの閲覧数が月平均2,000件を超えるとともに、「学校評価アンケート」の学校広報（学校Webサイト・Class・メール配信）に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ④中学生及びその保護者を対象とする学校説明会の参加者の満足度が９割以上となったか。				